

令和4年度 第1回 区民対話会 要旨

- 1 日 時 令和4年5月31日(水) 15:40~16:50
- 2 場 所 Zoomによるオンライン会議
- 3 参加者 敬愛大学：教職員35名、他大学教員2名
稲毛区：稲毛区長、地域振興課職員
- 4 テーマ 千葉での協働を考える
- 5 概 要

(1) 趣旨説明

現在、様々な面で制度疲労が起きていると感じている。非正規雇用が増え、少子・高齢化が進むとともに、ひきこもり、ヤングケアラーなど様々な問題が生じている。また、地域社会においても担い手不足などの問題があり、地域を支えるシステムが必要となっている。千葉市そして稲毛区が取り組んでいる計画・事業についての現状と課題を共有し、今後の官学協働のあり方について考えていきたい。

(2) 行政説明

千葉市基本計画及び稲毛区の特徴、自主企画事業についてスライドにより説明。

(3) 意見交換

- 大学や研究機関は、これまで以上に社会の実態を見ていくことが必要だと感じた。
地域の崩壊や家族形態の変化が起きており、ヤングケアラー、引きこもり、貧困などの問題について、「なぜ」ととどまらず、「どのように」解決するかに焦点を当て考え

ていかなければならない。少子高齢化等、社会構造が大きく動いており、制度疲労が起きている。官学が情報を共有し、アイデアを出しながら制度づくりで協働できれば良いと考える。

○ 基本計画の未来のまちづくりに向けた戦略的視点の中で「世界とつながる多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり」というのがあったが、具体的にどのような取り組みがあるのか。例えば、姉妹都市との交流や国際協力などをどのような観点で展開しているのかに関心がある。そうした国際交流を通して、21世紀という時代を生きる人材を育成することが必要ではないか。これは官学の協働ができる分野だと考える。

○ 稲毛区の新規事業である「G O近所さんぽ」に関心がある。区の魅力や地域資源を再発見するため、稲毛区の史跡や名所を歩いて巡るツアーとのことなので、ゼミの学生と一緒に参加できたらと考えた。また市ゆかりのアーティストによる「スペシャルコンサート」も聞いてみたい。

○ ウクライナ支援のためのチャリティバザーの開催を学生が中心となり企画しているので、区と一緒にやれば良いのではと考えた。

○ 稲毛区は南北に長いが、新港横戸町線をはじめ道路整備が進んでおり、稲毛から長沼方面への往来がある。また、西千葉周辺にこれだけの教育機関が集積しているのは日本の中でも稀有であると考え。これだけの高校生・大学生を街にとどめる戦略が必要だろう。多くの学びの場がある、公共施設もある、イベントもある、大きな本屋

も3か所ある。コンビニも居酒屋もある。しかし、いい意味で学生が滞留する場所がない。そこで文化が脈打つという稲毛区のスローガンから行くと、学びの場とある意味「裏文化」に通じたこの町の付加価値をどう上げていくか。まちづくりは10年20年かかる。若者が滞留するカフェやイベントができる広場や、ベンチを置くなど、地域の方と学生・生徒と一緒にやっていくことが大切。

- 子どもの貧困と地域の移民問題というテーマについて興味を持っている学生もあり、区役所にお伺いしお話をお聞きできればと考えている。とりわけ、外国籍の方との共生については、地域で起きているいろいろな問題を乗り越え、市が持続的に発展するためにも重要だと考えている。この分野については、本学も貢献できると考えているので、緊密に連携・協力していきたい。
- 今回は時間が足りず、みなさんの疑問や意見を掘り下げていくことができなかった。今後意見交換という形で進めていきたい。ありがとうございました。